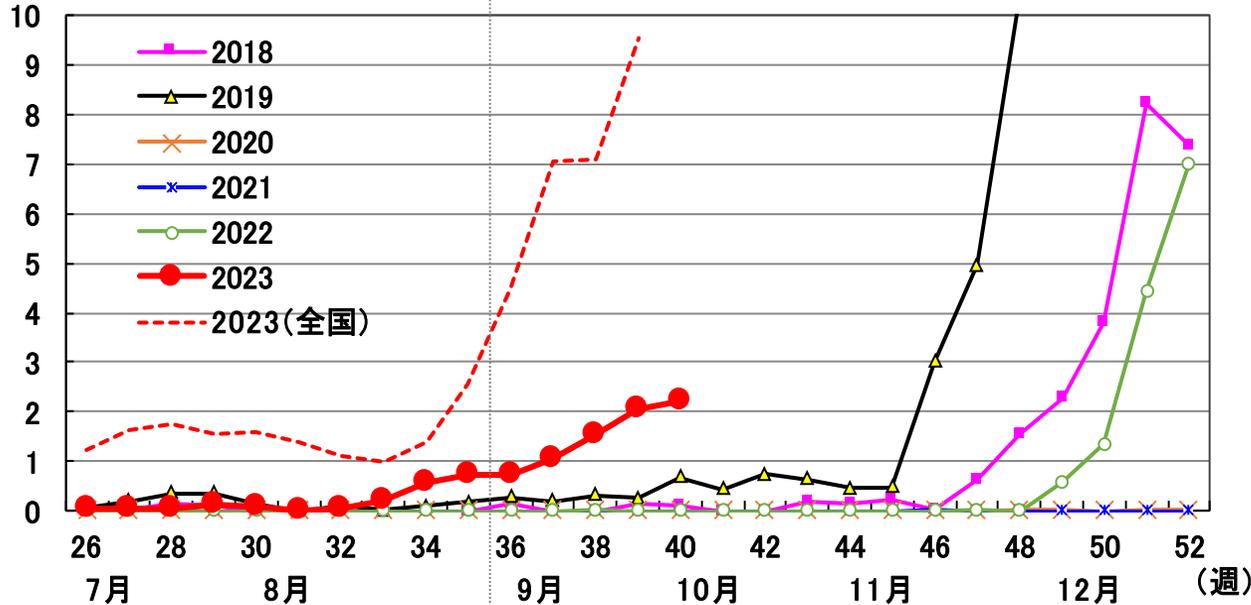


インフルエンザの発生状況(富山県)

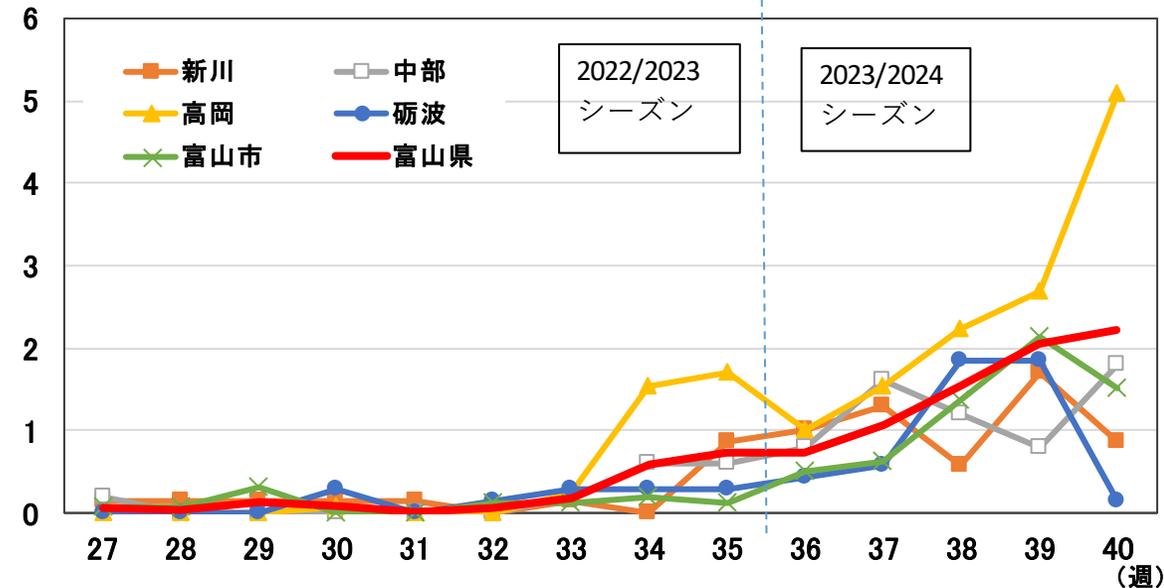
【第40週(2023/10/2~10/8) 感染症発生動向調査速報値 (2023/10/11時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数は第36週以降緩やかに増加しており、今週(第40週) **2.21**人/定点となった。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、高岡管内で急激な増加がみられた一方、新川、砺波、富山市管内では前週より減少した。

図3. 年代別割合(富山県、第40週)

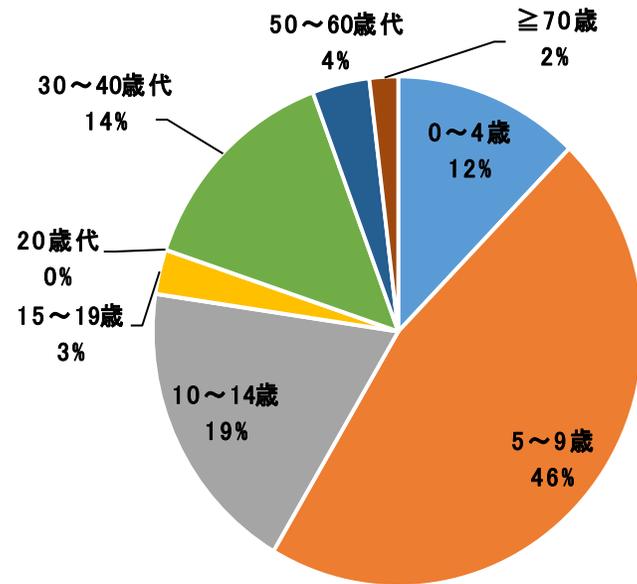
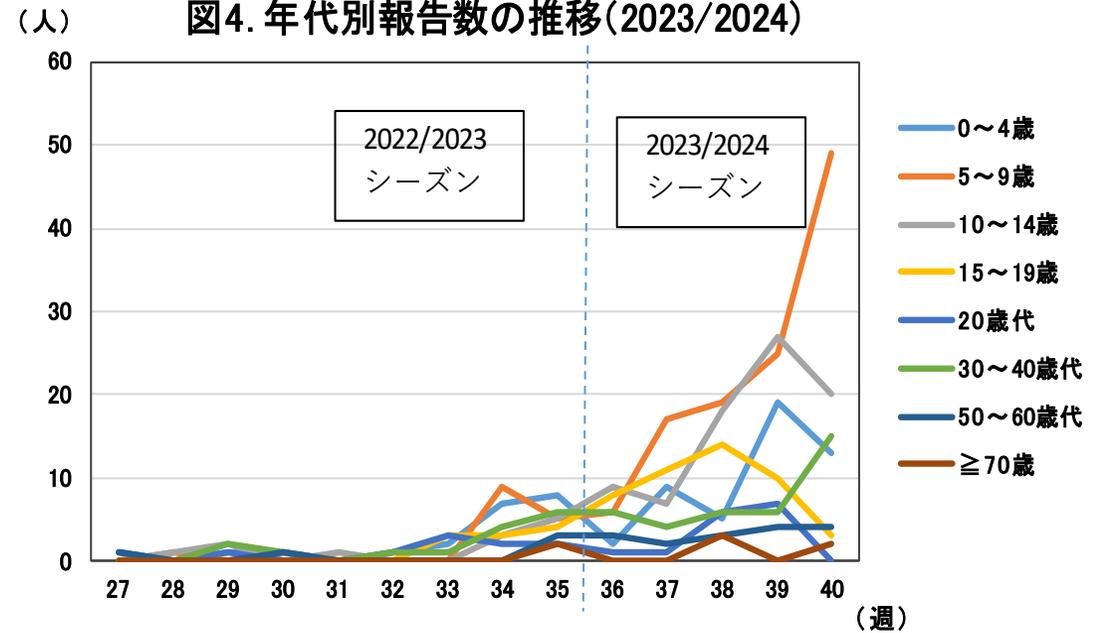


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第40週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が77%を占め、中でも5~9歳が全体の46%を占めた。また、親世代に当たる30~40歳代の割合が14%であった。
- 年代別報告数の推移（図4）では、5~9歳の年代で今週報告数が大きく増加し、30~40歳代でも増加がみられた。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は第40週に小学校3施設で報告があった。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第39週)

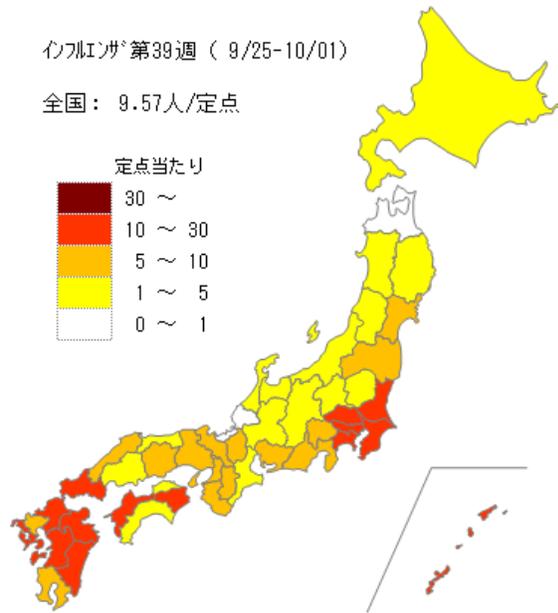
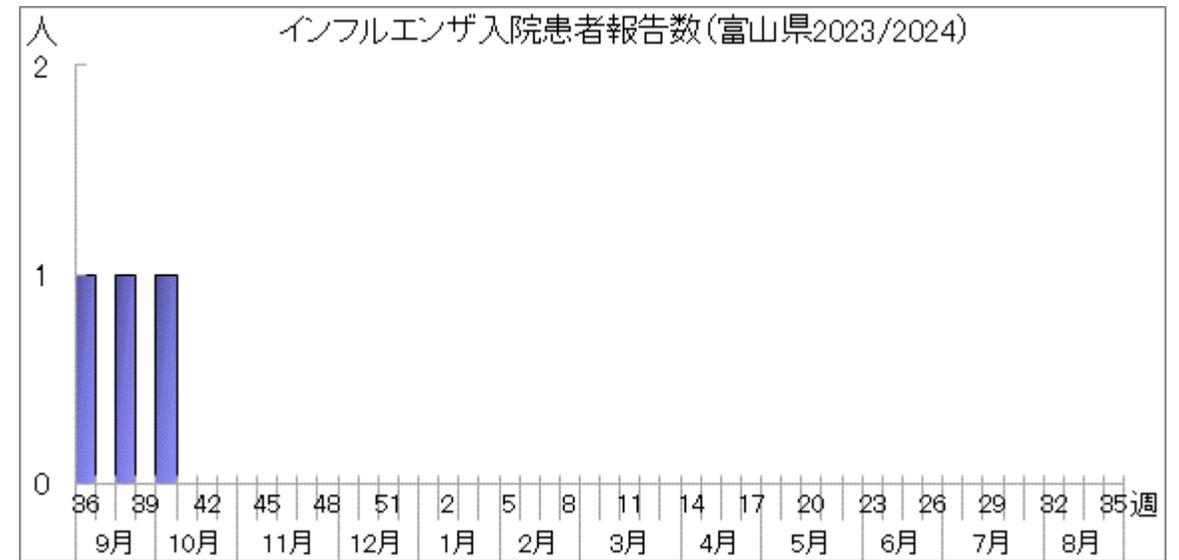


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第40週)



- 全国では第39週に9.57人/定点となり、第38週(7.09)から増加した。都道府県別(図5)では14都県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス(図6)では、第40週に1例の報告(70歳代)があった。
- 今シーズンは、例年より早期にインフルエンザの流行が認められた。緩やかながら患者数の増加傾向が続いており、今後の発生動向を注視する必要がある。